

# ECALGA

## ECALGAを支える ITインフラ

情報技術委員会

JEITA  
ECCENTER

ECALGA

# 目次

## 0. はじめに

## 1. 標準化への取り組みと変遷

## 2. 活動内容と事例

### 2-1. JEITA共通クライアント

### 2-2. Web-EDIガイドライン

### 2-3. ASP間連携

## 3. まとめ

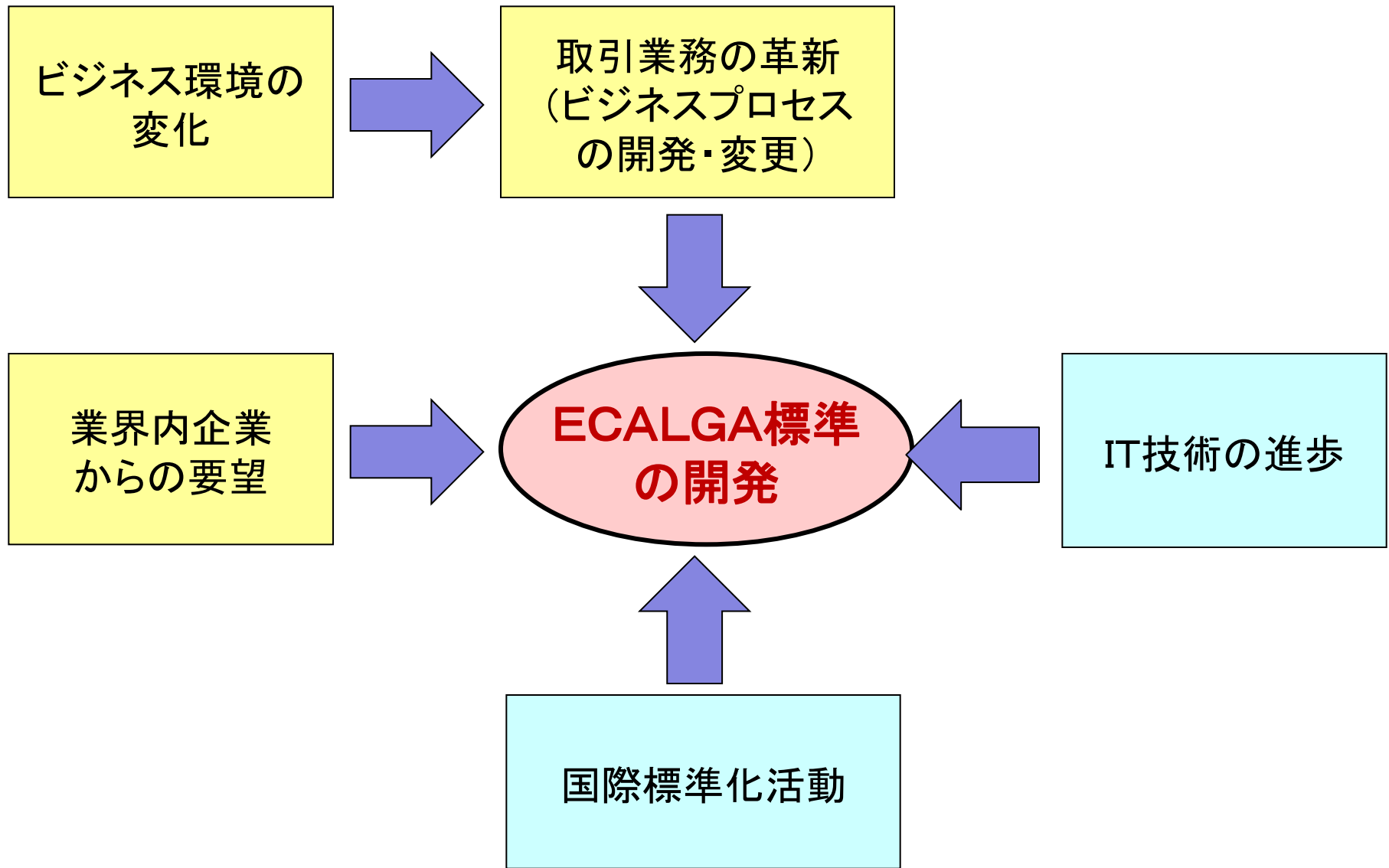
# 0. はじめに

情報技術委員会では、ECALGA標準を支えるITインフラの健全性を担保するために、企業間における全てのデータ交換を1インタフェースで実現することを目指して活動しております。

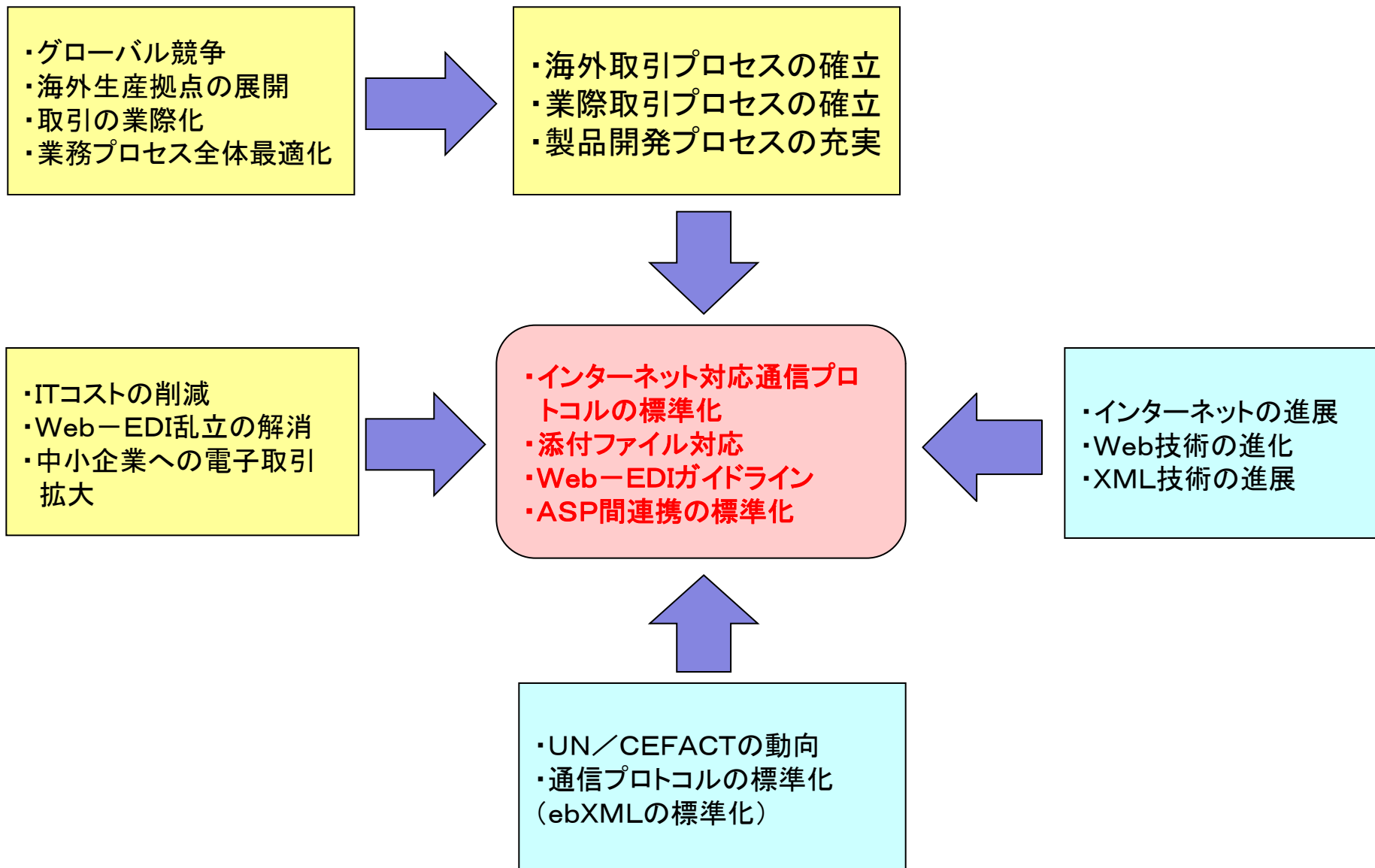
従来のEDI(EIAJ)からECALGAまで、標準を支えるITインフラ検討の変遷と現在の活動状況をご紹介します、今後のITインフラの方向性と想定活用事例をご紹介します。

# 1. 標準化への取り組みと変遷

# 1-1. 標準化への取組み



# 1-2. 標準化の具体化

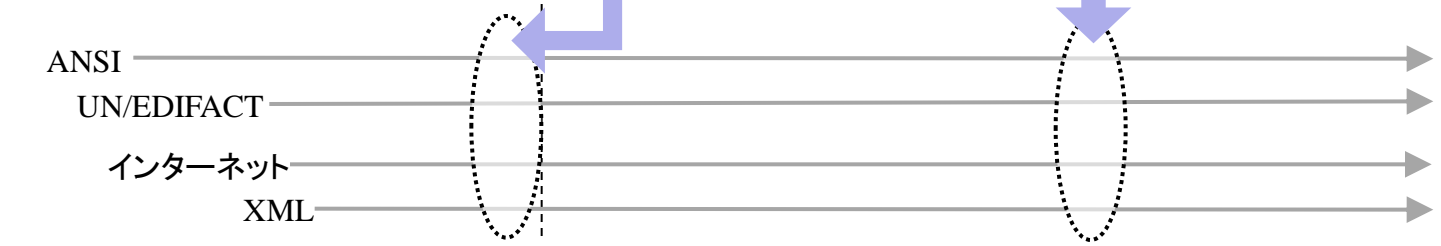
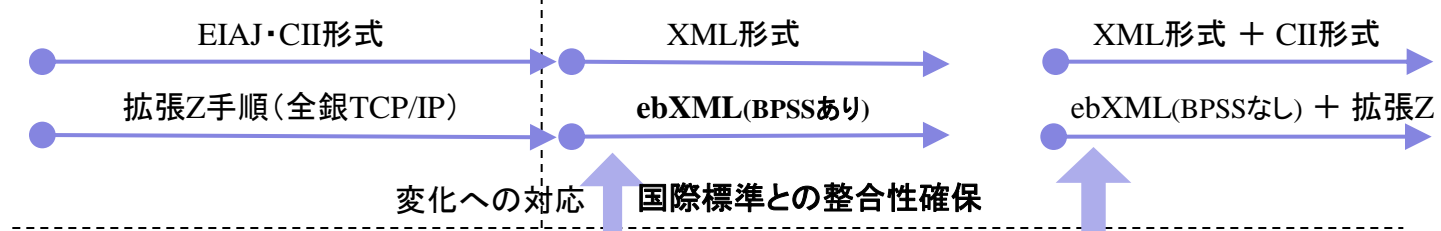
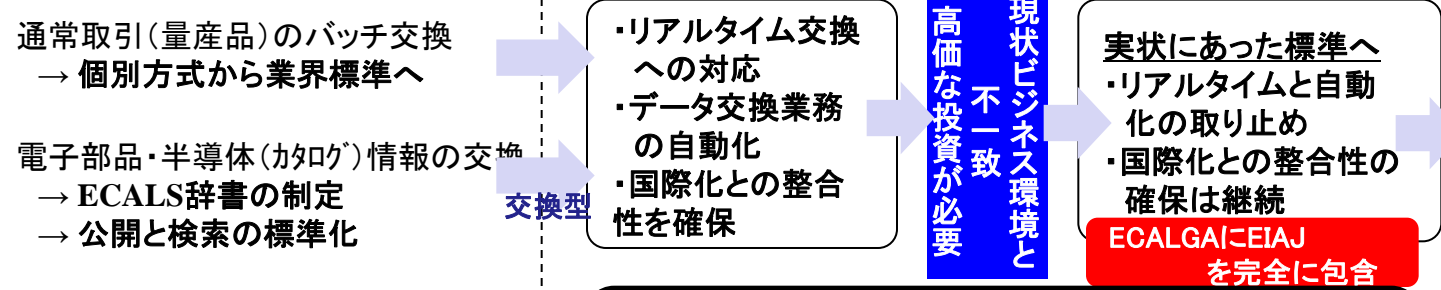


# 1-3. ITインフラ標準化の変遷

1989 EIAJ 2003 ECALGA 2013

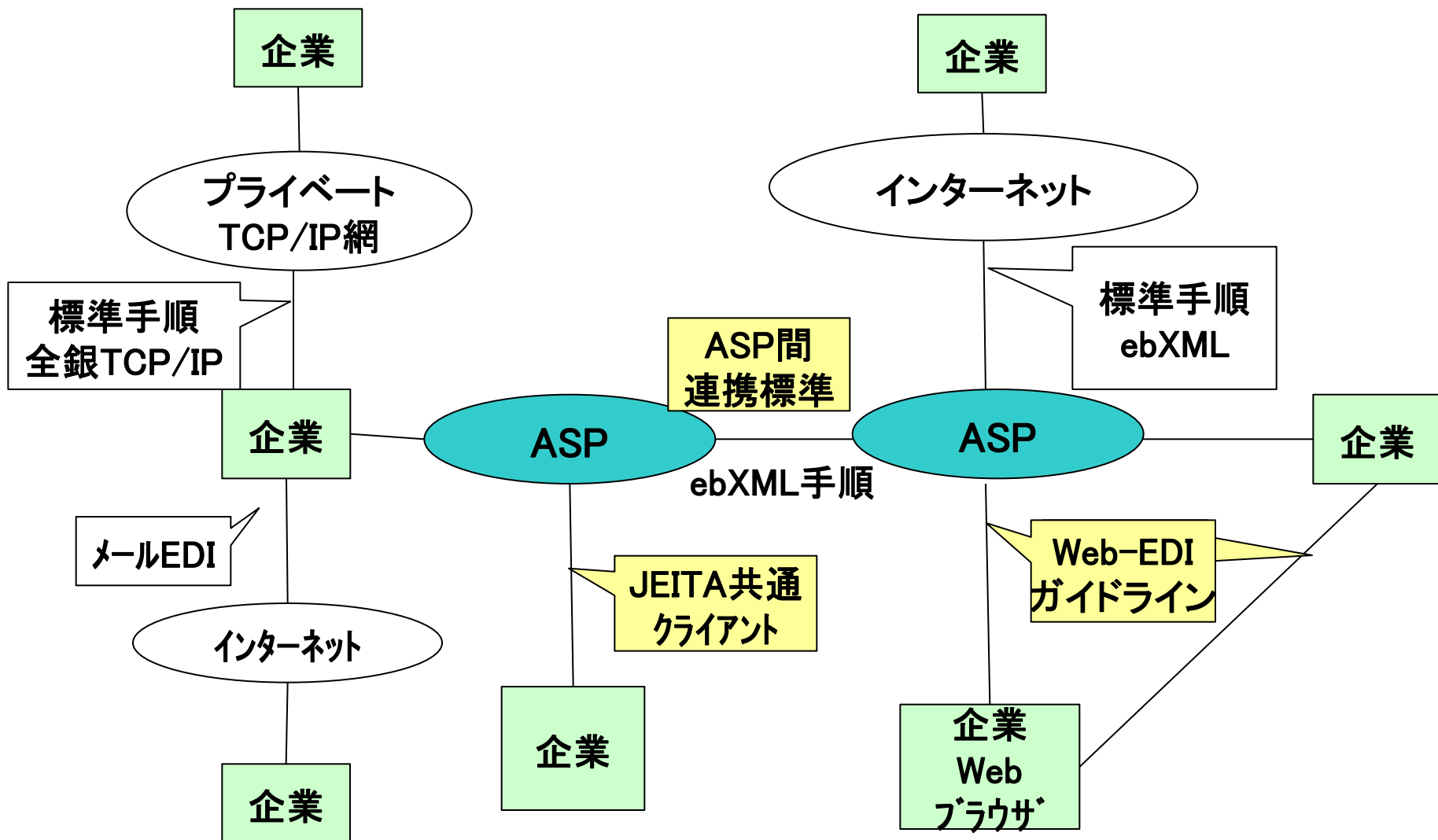
IT・エレクトロニクス業界における企業間の全業務プロセスの標準化と効率化（個別方式の撤廃）

JEITA	コンセプト	全体
		SCM (商取引情報)
		ECM (技術情報)
	標準構造	標準化テーマ
		メッセージ
		データ交換規約
EDI海外		
動技術		



業際化・国際化

# 1-4. ITインフラの全体像



標準化によりEDI利用企業の効率化を目指す



# 1-5. 標準化の直近の活動ポイント

## 1. JEITA共通クライアント

国際化を視野に国際標準プロトコル ebXML/MSを利用し実現  
添付ファイルを利用したデータ交換を含む、具体的な使い方の紹介

## 2. Web-EDI標準ガイドライン

多画面对策として利用インタフェース面(データ項目等)から標準化推進  
認定活動と直近の課題を紹介

## 3. ASP間連携

ASP利用企業のワンポータル化を目指す  
国際化、業際化対応を視野に検討  
実証実験等を通じて見えてきた課題を紹介

**以降、活動内容と標準化の事例を紹介します。**

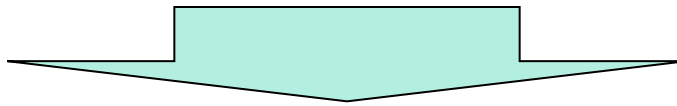
## 2. 活動内容と事例

### 2-1. JEITA共通クライアント

# 2-1. (1) JEITA共通クライアント

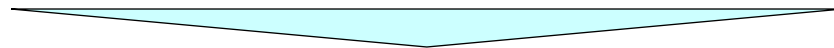
## 背景 問題点

- 1. インターネットを利用したEDIの通信手段のニーズ**  
→通信コスト削減、高速・安全な通信手順
- 2. EDIサーバの運用コストの懸念**  
→サーバ～サーバ接続の場合、常時稼動が必要。  
企業の負担増



## 解決策

- 1. 安全にインターネットを利用したEDIの実現**  
①httpsベースの通信経路
- 2. 安価にEDIを実現**  
①クライアント接続により、EDIサーバの運用コストを低減  
②JEITAより無償提供



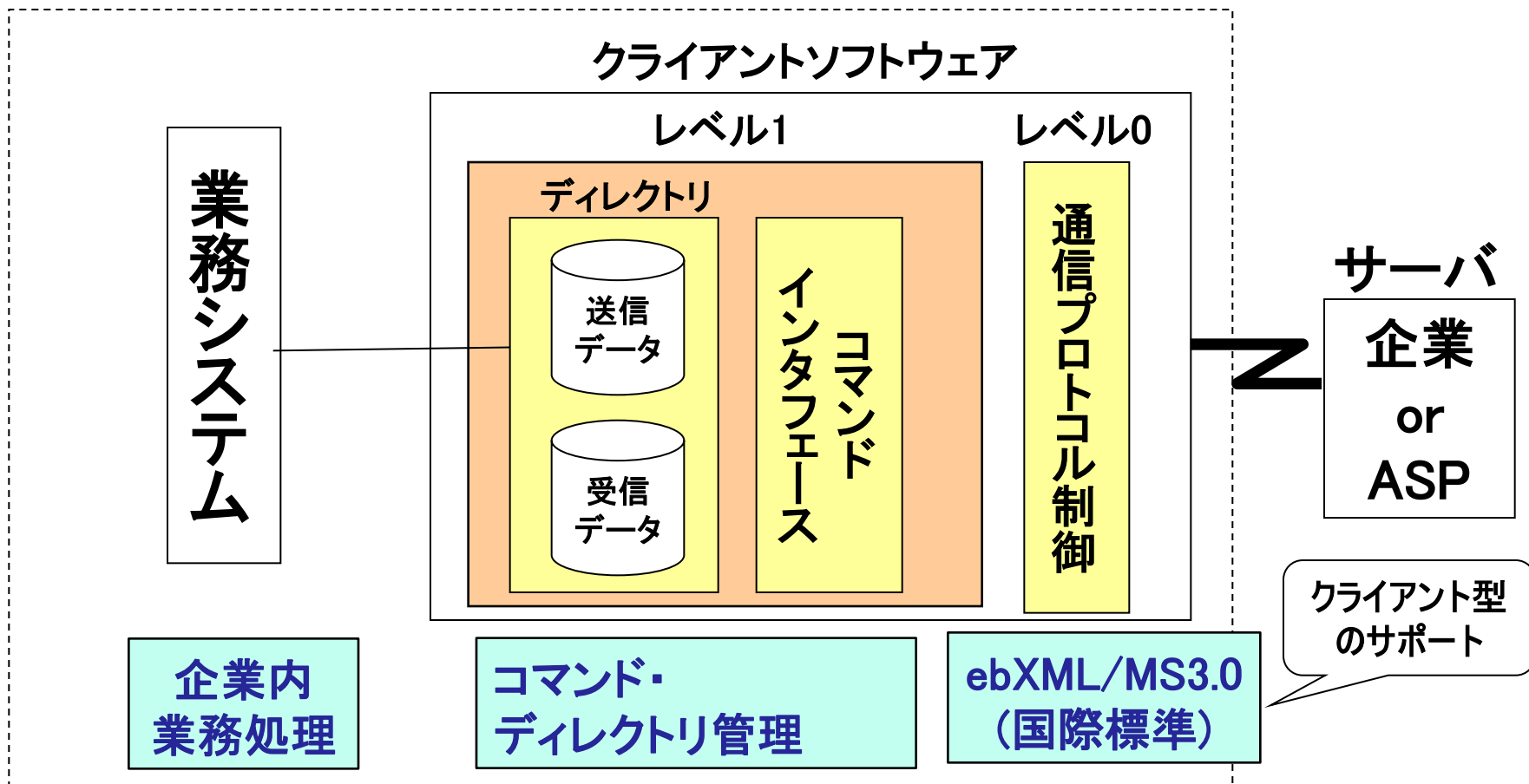
**JEITA共通クライアントの提供**

# 2-1. (2) JEITA共通クライアントとは

## ◆国際標準ebXML/MS3.0(Pull型)準拠の無償クライアントソフト

### ◆ソフトウェアの機能概要

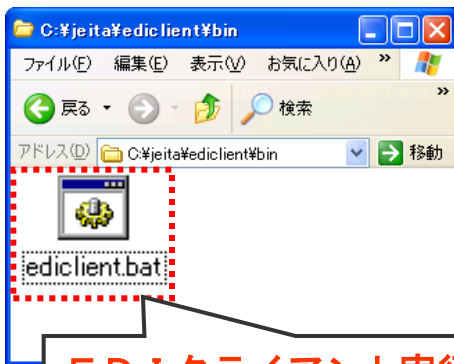
- ・レベル0：通信プロトコル制御⇒ebXML/MS3.0(Pull型)準拠
- ・レベル1：送受信コマンド制御とファイル管理



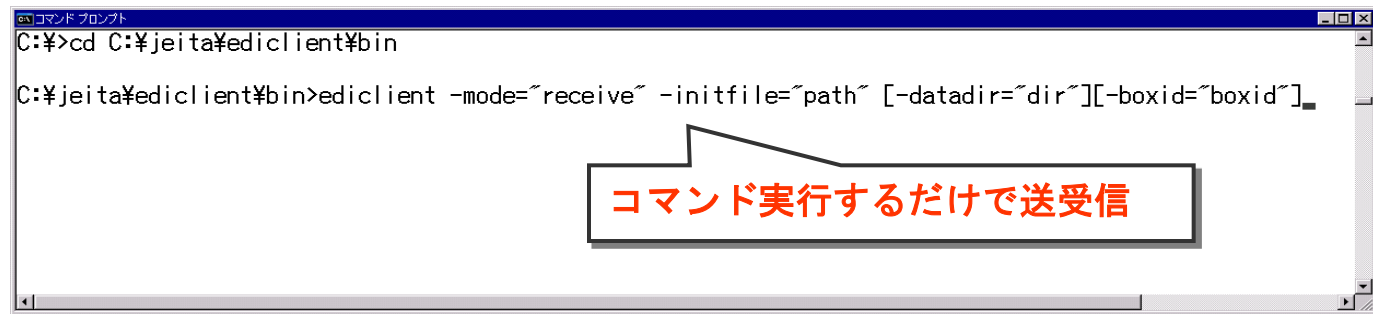
# 2-1. (3) JEITA共通クライアントの利用方法

## 高度なIT知識不要

- ・インストールはファイル展開のみ。設定ファイルの編集で利用開始
- ・コマンドプロンプトにてバッチコマンドを実行するだけで送受信が可能
- ・EDIメッセージと添付ファイルを同時に送受信可能
- ・Windowsのタスク機能に送受信コマンドを登録することで、定期的かつ自動的に送受信可能



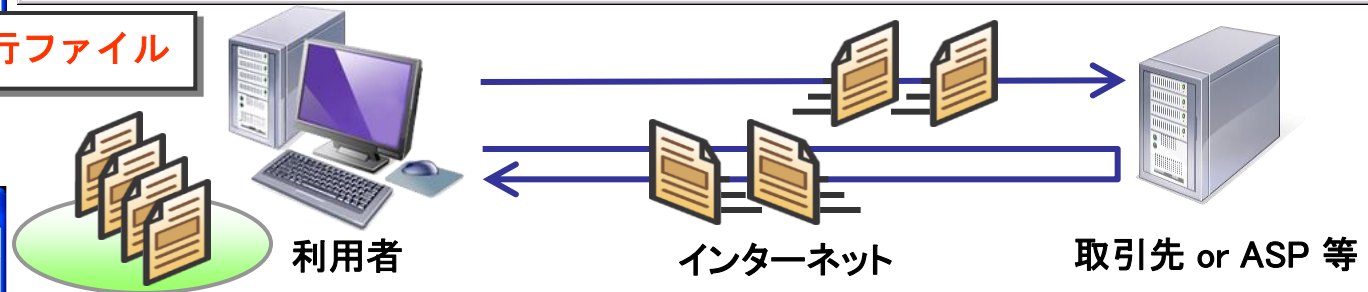
EDIクライアント実行ファイル



コマンド実行するだけで送受信



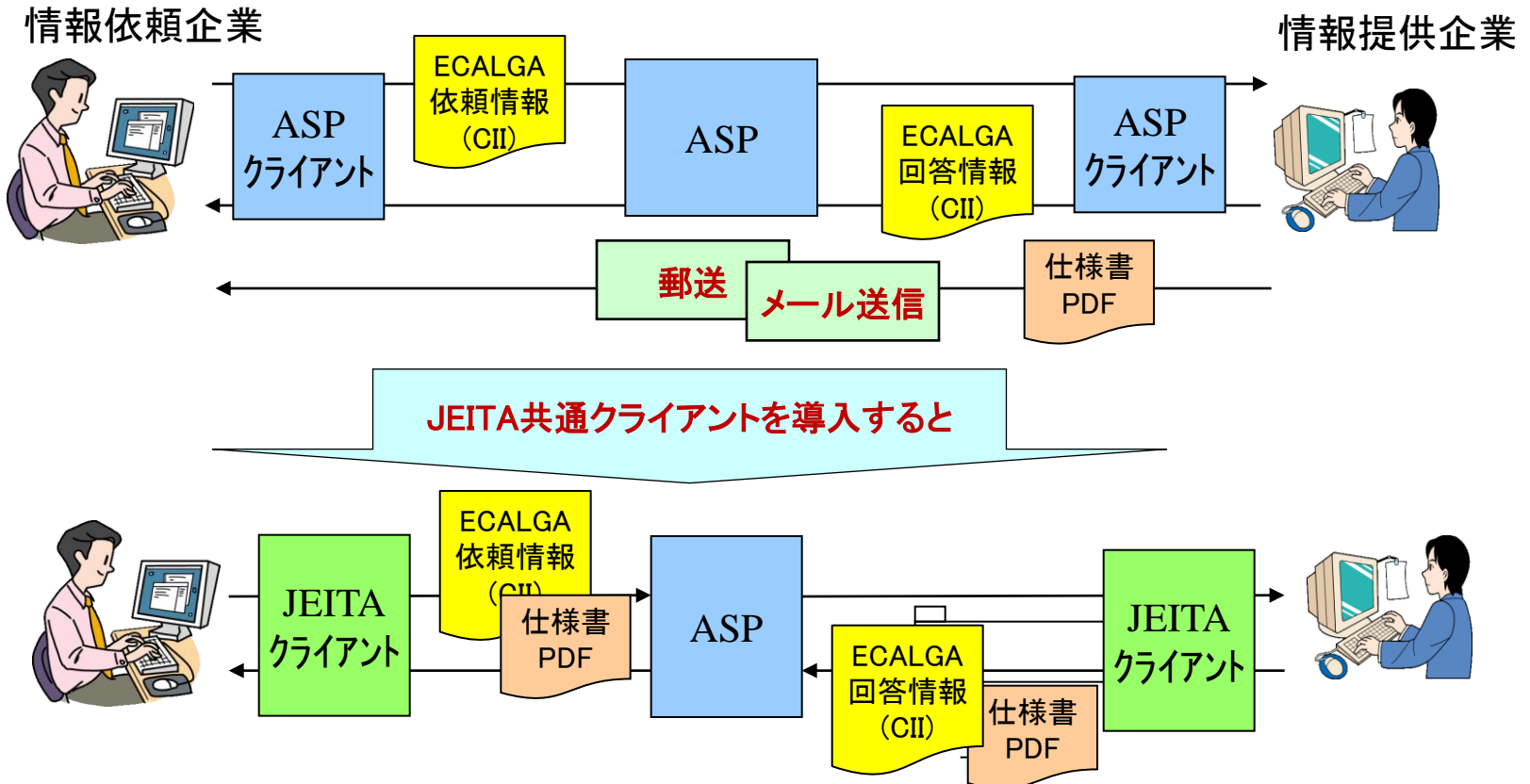
タスク登録で定期的に自動送受信



# 2-1. (4) 活用事例：添付ファイル付メッセージ送受信

## 想定シーン

ECALGAメッセージのデータ交換だけでなく仕様書を送受信したい。  
データ交換時の紐づけが手間がかかるケースがある。

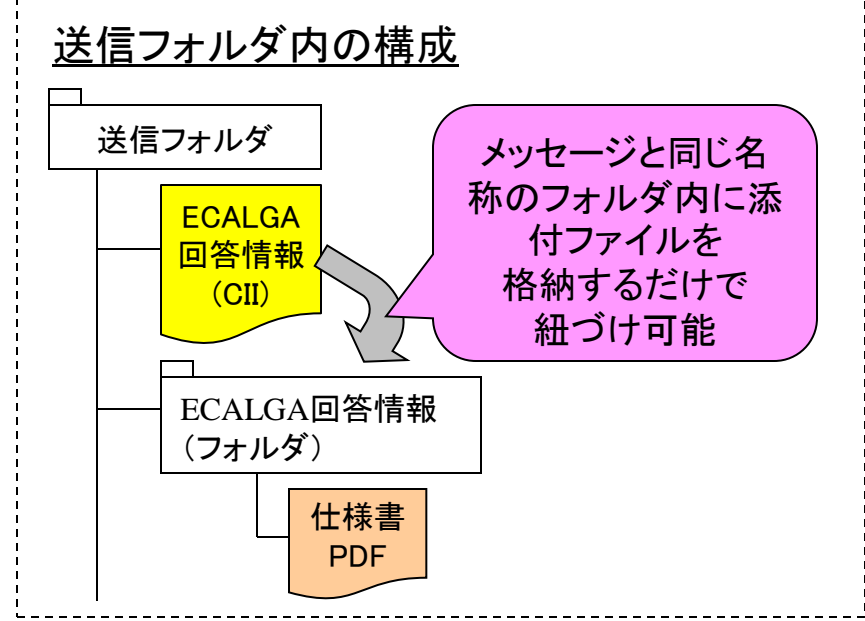
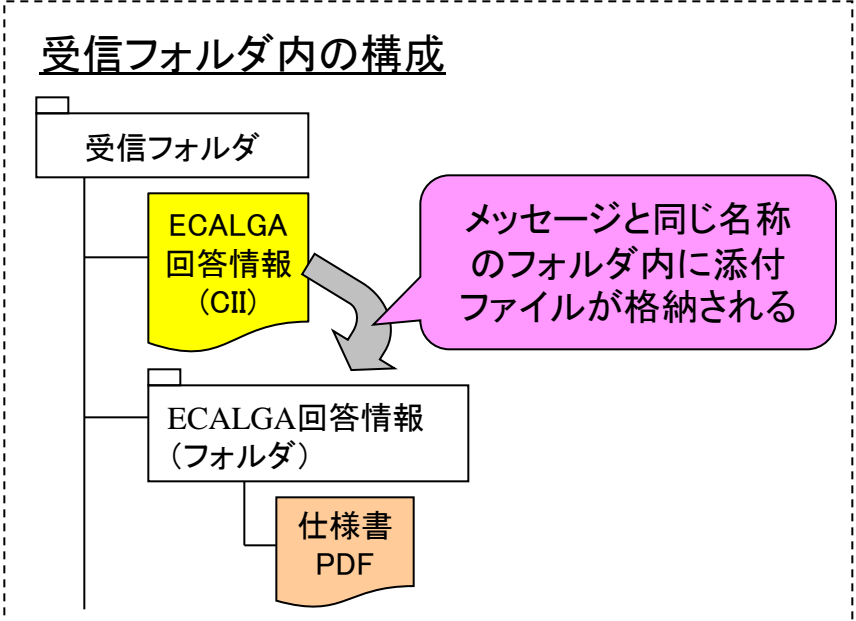
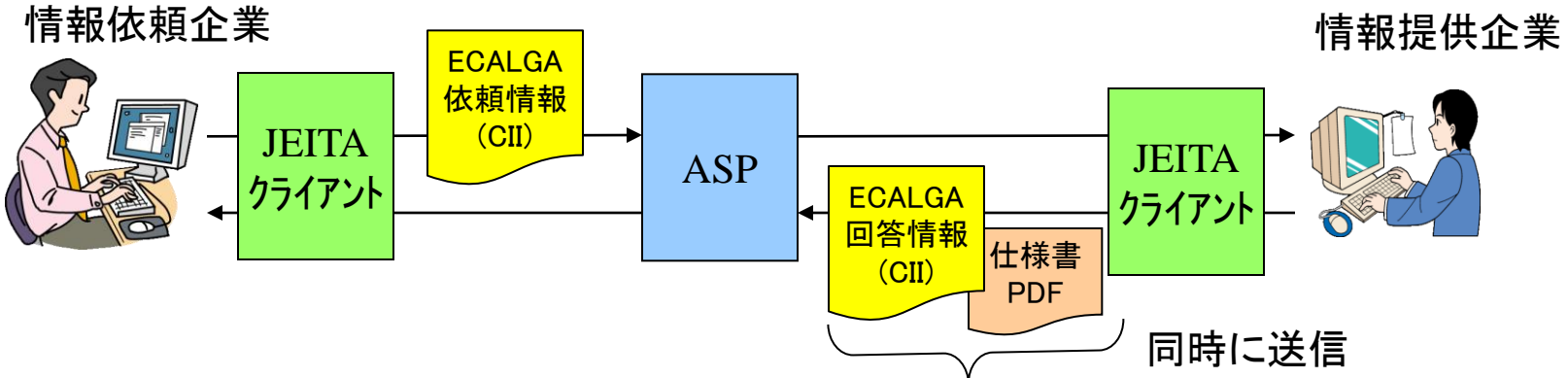


## 効果

- ・EDIメッセージと関連するファイルを同時に送受信でき、EDIデータとして管理可能
- ・通信インフラとしてJEITA共通クライアントのみで対応可能

# 2-1. (4) 活用事例：添付ファイル付メッセージ送受信

## 送受信EDIメッセージと添付ファイルの紐付けの方法



# 2-1. (5) JEITA共通クライアント利用状況

## 1) JEITA共通クライアントの利用環境条件

・リリース日: 2013年4月30日 (Ver2.2)

・動作環境:

OS、Java 下記組合せ対応版のクライアントソフトを提供

対応OS : Windows8 , Windows7, WindowsVista SP2.0,  
WindowsXP SP3.0

Java Version: 1.5 , 1.6, 1.7

・利用範囲: 国内利用に限定

・費用: 無償

## 2) JEITA共通クライアントの提供状況

・累計ダウンロード数 : 142件

Ver1.0 (Java Version 1.5対応版): 73件 (2009年6月～2011年2月)

Ver2.0/2.1 (Java Version 1.6対応版): 59件 (2011年2月～2013年4月)

Ver2.2 (Java Version 1.7対応版): 10件 (2013年4月～10月現在)

今後の課題: 実証実験結果を踏まえ、互換性を保持・利便性向上



# 2-1. (6) JEITA共通クライアント入手方法

ダウンロード手順:

JEITA HPより、共通クライアントソフトウェアダウンロードページに遷移し、利用規約の内容に同意の上、名刺情報を入力しダウンロード下さい。(無償)

The screenshot shows the JEITA website interface for downloading the common client software. The main page is titled "共通クライアント" (Common Client) and includes a registration form for downloading the software. The form fields are:

企業名称 [必須]	<input type="text"/>
部署・役職1	<input type="text"/>
部署・役職2	<input type="text"/>
氏名 [必須]	<input type="text"/>
郵便番号 [必須]	<input type="text"/>
住所1 [必須]	<input type="text"/>
住所2	<input type="text"/>

Below the form, there is a diagram illustrating the software architecture. It shows a "クライアントPC" (Client PC) connected to a "サーバ (ASP or 企業)" (Server) via "インターネット" (Internet). The client PC contains the "共通クライアントソフトウェア (送受信機能に特化)" (Common Client Software, specialized for sending and receiving). The server contains "EDIデータ" (EDI Data). The diagram is labeled "JEITA-ECセンター" and "ダウンロード/インストール" (Download/Install). Below the diagram, it states "「通信プロトコルは国際標準 ebXML ebMS V3.0に準拠」" (Communication protocol conforms to international standard ebXML ebMS V3.0). At the bottom of the diagram, there is a red box containing the text "【共通クライアントソフトウェアダウンロード】" (Common Client Software Download).

On the right side of the screenshot, there is a search results page for "JEITA 共通クライアント". The search results show "JEITA 共通クライアント" as a download option, highlighted with a red box. The search results also include other software packages like "ECALS", "JEITA-Green", "JEITA AIS作成支援ツール", and "IOS".

## 2. 活動内容と事例

### 2-2. Web-EDIガイドライン

## 2-2. (1) Web-EDIガイドライン

### 背景 問題点

- 1. 画面が標準化されていない(発注企業ごとのレイアウト)**  
→利用者側の処理の複雑さを招いている。
- 2. 利用者側でEDIデータを再利用しづらい**  
→画面までの処理に留まっており、社内システムと連携できずデータを入力している場合が多い

### 解決策

- A. 個別方式の廃止・データ連携の実現(標準化推進)**
  - ①Web-EDIガイドラインに沿ったWeb-EDIの構築
  - ②受発注者双方の業務円滑化、企業間取引の効率化の推進
- B. 利便性の向上**
  - ①Web-EDI利用者の不便さ、使い勝手の悪さ等の解消
  - ②Web-EDI構築で対応すべき(が望ましい)事項の整理

## Web-EDIガイドライン(認定制度)の策定

# 2-2. (2) Web-EDIガイドライン(認定制度)

## 標準化項目

チェック内容	
ECALGA標準に即した運用	
1	標準(統一)企業コードの取得・採番、該当標準項目へのセット
2	各情報種毎データ項目の標準準拠
3	標準納品書・Dラベルのレイアウト、バーコード標準準拠
4	ファイルダウンロード(アップロード)機能の実装

## 認定制度

説明	主な内容
概要	<p>(1) Web-EDIガイドライン適合で認定 ※認定マーク発行</p> <p>① ASP事業者、② パッケージ、③ 利用者</p> <p>(2) JEITAホームページで公開 ※貢献を広くアピール</p> <p>① 認定企業、② Web-EDIシステム名称</p>
仕組み	<p><u>Web-EDIガイドライン認定チェックシートご提出</u></p> <p>JEITA情報技術委員会にて審査。</p> <p>認定期間:2年、認定費用:無料</p>



## 2-2. (3) Web-EDIガイドライン(認定状況)

### 認定状況

(2013/9/30  
時点)

種別	総数
①自社構築システム	2社-2システム
②ASPサービス	6社-6システム
③パッケージソフト	4社-4システム
④ASP利用者	1社-1システム
[認定Web-EDI利用企業数] 発注者: 730社 受注者: 42,000社	

### 今後の課題

#### Web-EDIガイドライン認定内容の見直し

##### ①ファイル転送型EDI提供要否の再考

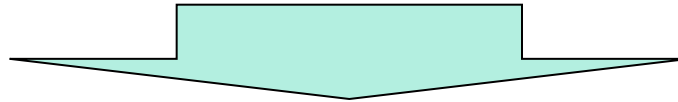
受注者が自社のバックエンドシステムと効率的に連携させて、受信データのダウンロード・送信データのアップロードを行う事を想定、発注者は受注者に対し、ファイル転送型EDIも併せて提供。

##### ②利用ASPの集約、画面レイアウトの検討

## 2-2. (4) Web-EDIガイドライン(認定事例)

### 認定時における指摘事例

- ①新着データのダウンロード機能が提供されていない(再ダウンロード含)。
- ②各情報種類毎に定義されているデータ項目が、ECALGA標準に準拠していない。(名称・属性・桁数の齟齬、必須項目が必須でない etc.)
- ③標準(統一)企業コードを取得・利用していない(独自コードで運用)。
- ④標準納品書のレイアウトが、標準に準拠していない。  
(指定表示項目印字なし、バーコードの位置・行数の齟齬 etc.)



上記など必須チェック項目に不適合の場合でも、状況を照会させて頂き、条件つきで認定が可能なケースもございます。

(指定期間での改修依頼、運用上のお願い etc.の条件をご了承頂ける場合)

システム(サービス・パッケージ)提供各社、利用各社の認定申請をお待ちしております。

## 2. 活動内容と事例

### 2-3. ASP間連携

## 2-3. (1) ASP間連携(目的)

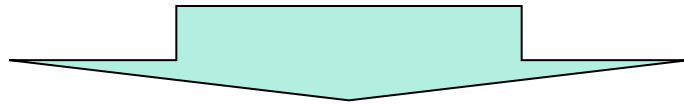
### 背景 問題点

#### 1. 発注企業毎に取引方法が異なる。

- 発注者指定の取引方法に合わせざるを得ない。
- 発注企業毎で指定ASPが異なる。

#### 2. お客様や取引先が他業界や海外にシフトしている。

- お客様の取引方法に沿う必要がある。
- 業界又はグローバルでEDI仕様が異なる。



### 解決策

#### A. ASPのワンポータル

- ①利用者が自分で接続先ASPを選択できる。
- ②振分機能により、発注企業指定のASPに仕分けできる。

#### B. 業界間・グローバル間EDI

- ①共通のビジネス通信基盤を提供できる。
- ②振分機能により、データ仕分けが実装できる。



# 2-3. (2) ASP間連携とは

## ASP間運用標準ガイド

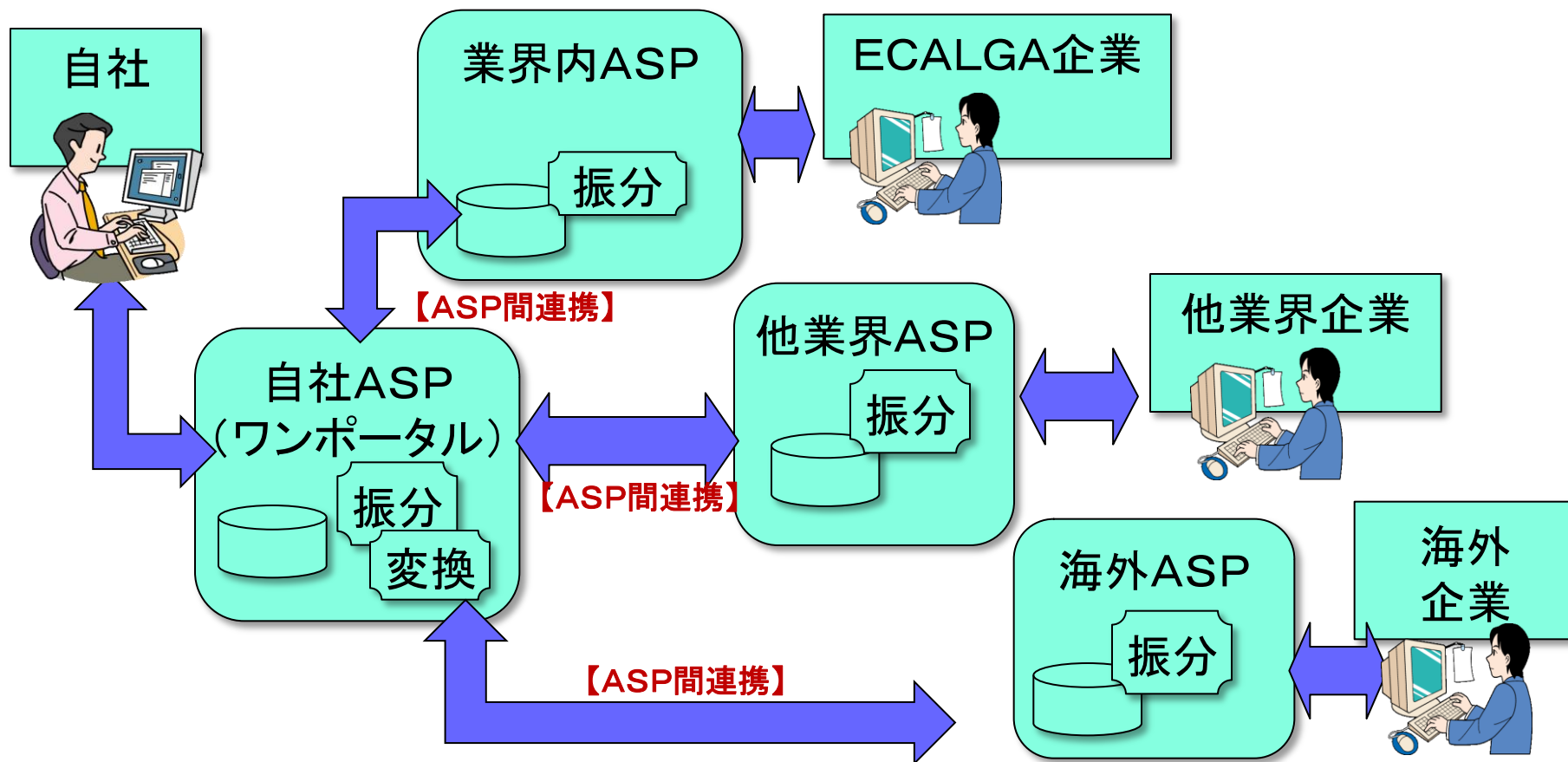
説明	主な内容
ガイドライン	<p><b>(1)ASP間運用標準ガイドライン</b></p> <p>①システムルール、②運用ルール</p> <p>ASPワンポータル実現のために、ASP間連携において、ASPが守るべきルールを取り決めたもの</p>
仕組み	<p><b>(2)通信プロファイル合意書</b></p> <p>①JEITAホームページで雛形公開</p> <p>②ASP間で合意書を交換</p> <p>共通通信基盤実現のため、ASP間の通信仕様に関して、JEITAの雛形をもとに、通信プロファイル合意書を交換し取り決める。</p>

## 標準ガイド項目

#	標準ガイド項目
1	【送達確認】複数のASPを介してもデータ送達を確認できる。
2	【振分ヘッダ】一括データを宛先ASPや企業に仕分けできる。
3	【エラーコード】送受信を自動化又はシステム化できる。
4	【通信プロファイル合意書】システムが通信仕様を認識できる。

## 2-3. (3) ASP間連携標準(全体像)

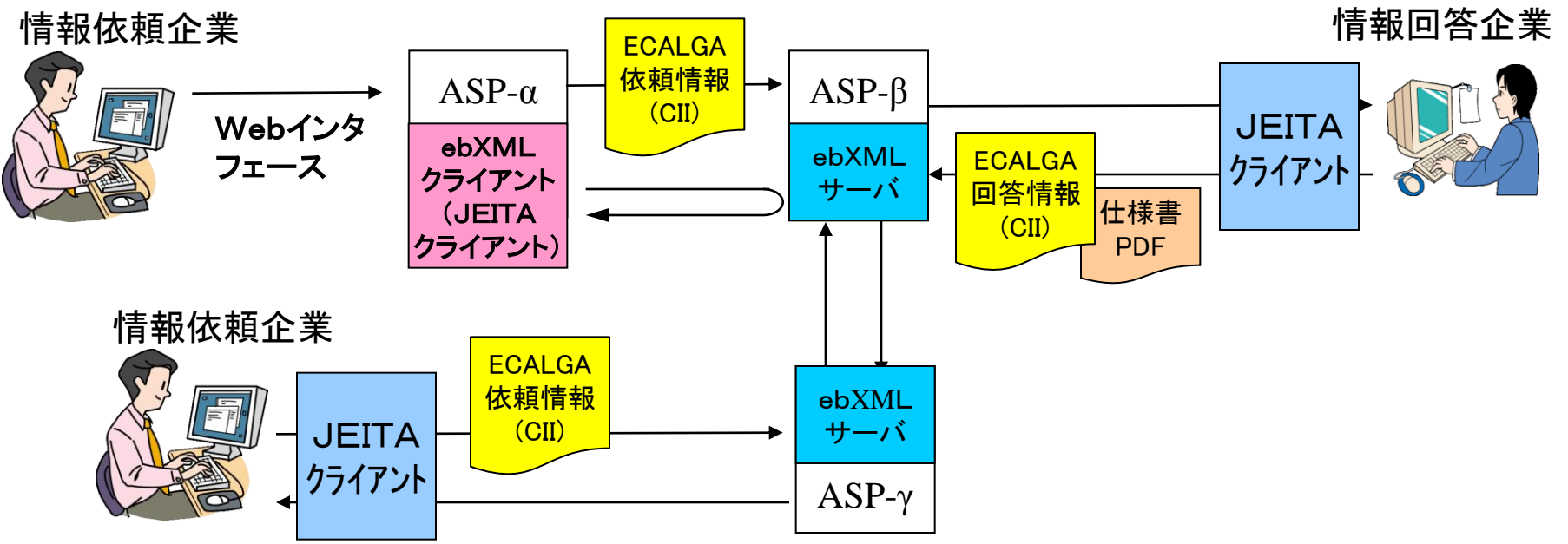
- ASPで業界内・他業界・グローバルであっても、ワンポータルを実現
- ・振分機能により、データ仕分けの効率化 [CII/ECALAGAヘッダ振分]
  - ・送達確認機能により、連携先ASPの状況把握が可能



今後の課題: 実証実験結果を踏まえ、メッセージに依存しない振分の検討

# 2-3. (4) 事例: JEITA共通クライアント利用(技術情報交換実証)

**想定シーン**  
添付ファイルつきメッセージの交換を他ASPを介して取引先企業に送付したい  
ASPがebXMLサーバを実装していない



**効果**  
・JEITA共通クライアントをASPで活用し、情報回答企業のワンポータルを実現

**今後の課題: 実証実験の結果を踏まえ、クライアント利用時の運用ルール検討**

# 3. まとめ

ITインフラは、どのような相手(他業界、グローバル)とも接続できることが理想。  
現在のインフラは、JEITA(ITインフラ業界)内のデータ形式に依存して実装してきたが、成果をベースに他業界、国際接続の実現に向けて推進してゆきたい

	テーマ	課題
1	JEITA共通クライアント	<ul style="list-style-type: none"><li>・実証実験の指摘事項を踏まえ機能強化</li><li>・海外利用展開の検討</li></ul>
2	Web-EDIガイドライン	<ul style="list-style-type: none"><li>・あるべきEDI推進のために、ガイドラインの見直し</li></ul>
3	ASP間連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・国際標準化動向を視野に、EDIメッセージに依存しない連携の方式を検討</li><li>・クライアント接続を前提としたASP連携検討</li></ul>

**ECAALGA**